

医療水準の向上と健全経営に向けて

先月号では、市内の病院が抱えている医療課題の中から、当直明けの24時間を超える医師の過酷な勤務状況や、米谷病院外科の診療休止、佐沼病院産婦人科の診療制限、診療報酬の減額改定などによる経営悪化の状況についてお知らせしました。今回は、医療の受け手側である市民皆さんが、どのような状態でこの病院で受診しているのか、またこの病院に入院しているのかなど、医療の現状をお知らせします。



米谷病院の内科病棟で清拭作業をする看護師

受診・入院している病院の傾向

市民が日ごろ、通院している医療機関を平成18年5月の国民健康保険（国保）データで見ると、外来は市立病院が30・0%、市内の診療所が48・2%で、登米圏域全体では78・2%になります【図1】。圏域外は21・8%で、そのうち栗原地域が7・1%、仙台・大崎地域がそれぞれ4・2%、石巻地域が4・0%となっています。一方、入院の場合は登米圏

他圏域への依存が増加

平成14年度に宮城県で集計した県内の医療圏域における自足率のデータを見ると、登米圏域の外来は82・2%で、県の平均的な自足率を示していました【表1】。ただし、入院は57・9%と県平均を下回っています。18年度の国保データを見ると、それぞれ78・2%、51・8%となっており、外来・入院ともに、年々ほかの圏域へ依存する率が高くなってきています。

登米市における疾病構造

平成18年5月の国保データから、市民がどのような病気で治療を受けているかを集計してみると、入院、外来ともに脳梗塞や高血圧症などの「循環器系の疾患」が非常に多く、全患者数の4分の1を占めています【図2】。次に多いのは、入院では統合失調症などの「精神および行動の障害」、がんなどの「新生物」の順となり、外来では白内障などの「目および付属

表1 外来・入院患者の受診地域

地域	自足率	他圏域（依存率〔%〕）				
		1位	2位	3位	4位	5位
登米	82.2	栗原 6.5	大崎 3.7	仙台 3.7	黒川 0.7	大崎 0.7
大崎	92.0	仙台 4.3	石巻 1.4	黒川 0.7	仙台 3.2	大崎 0.7
栗原	85.6	大崎 7.2	登米 3.6	仙台 0.9	大崎 0.7	登米 0.9
石巻	94.4	仙台 2.9	塩釜 1.1	大崎 0.1	大崎 0.1	塩釜 0.4
気仙沼	94.7	石巻 2.1	仙台 1.9	登米 0.1	塩釜 0.4	塩釜 0.4
仙南	86.1	仙台 8.1	岩沼 5.6	塩釜 0.1	塩釜 0.4	塩釜 0.4
岩沼	76.7	仙台 21.6	仙南 1.2	塩釜 0.4	大崎 0.4	大崎 0.4
塩釜	78.6	仙台 19.8	石巻 0.6	大崎 1.8	大崎 1.8	大崎 1.8
黒川	57.7	仙台 36.4	塩釜 3.6	大崎 5.8	大崎 5.8	大崎 5.8

表2 登米市立5病院の病床利用状況の推移

地域	自足率	他圏域（依存率〔%〕）				
		1位	2位	3位	4位	5位
登米	57.9	仙台 13.0	大崎 10.5	栗原 8.4	塩釜 1.6	塩釜 1.6
大崎	77.1	仙台 15.2	石巻 2.2	塩釜 8.1	登米 3.0	登米 3.0
栗原	54.1	大崎 17.4	仙台 15.5	登米 8.1	岩沼 0.8	岩沼 0.8
石巻	75.6	仙台 14.8	大崎 3.4	岩沼 0.1	塩釜 0.5	塩釜 0.5
気仙沼	87.0	仙台 8.1	石巻 2.3	岩沼 0.1	塩釜 0.9	塩釜 0.9
仙南	61.8	仙台 20.2	岩沼 17.7	塩釜 0.5	石巻 0.9	石巻 0.9
岩沼	60.3	仙台 36.7	仙南 1.8	塩釜 0.5	石巻 0.9	石巻 0.9
塩釜	57.6	仙台 37.9	岩沼 2.3	石巻 0.9	大崎 5.8	大崎 5.8
黒川	22.2	仙台 60.3	塩釜 7.2	大崎 5.8	大崎 5.8	大崎 5.8

図1 疾病別外来・入院患者数の割合（平成18年5月国民健康保険データ）

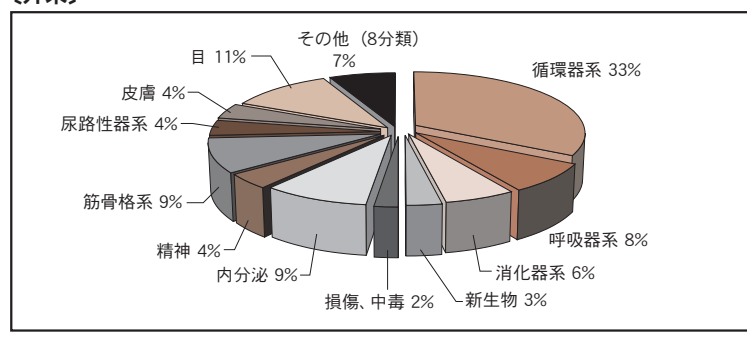


図2 疾病別外来・入院患者数の割合（平成18年5月国民健康保険データ）

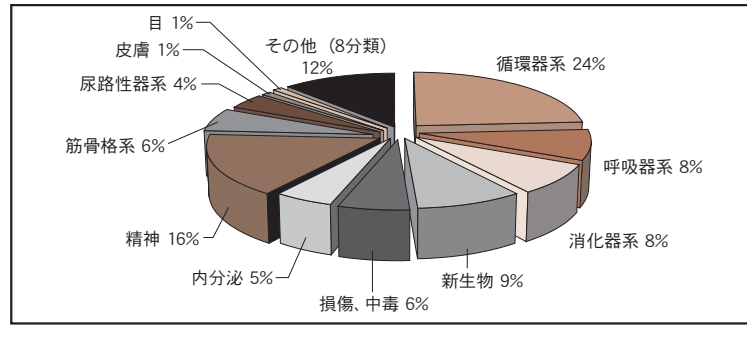
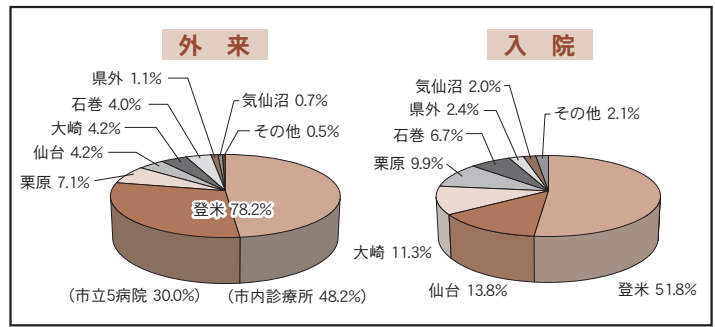


表2 登米市立5病院の病床利用状況の推移

区分	平成18年度	平成17年度	平成16年度
佐沼病院	75.7 (300)	82.5 (300)	79.8 (300)
登米病院	69.5 (98)	75.9 (98)	84.2 (98)
米谷病院	43.9 (133)	57.7 (133)	58.9 (133)
豊里病院	88.5 (101)	93.9 (101)	94.0 (75)
よねやま病院	63.7 (53)	79.5 (53)	83.2 (53)

() 内は病床数

図3 外来・入院別に見た受診地域



資料：平成18年5月国民健康保険データ

器の疾患、関節症などの「筋骨格系および結合組織の疾患」となっています。他圏域に入院している患者の主な疾病は、統合失調症やがんなどとなっていますが、同じ疾病で市立病院に入院し、治療を受けているケースもあることから、個々の症状にはよるものの、市立病院で治療が受けられるケースがあるのではないかと考えられます。

市立5病院の病床利用状況

入院が必要な人の半数は、他圏域の医療機関を利用してはいますが、市立5病院の入院施設が満杯なのかというところではありません。市立5病院の病床利用状況の推移は次のようになっていきます【表2】。各病院とも年度を追うごとに入院患者が減少しています。それに伴って、ベッドの利用率が下がってきている状況にあり、前年度に比べて18年度は5病院全体で、一日当たりの利用が約60床少なくなっています。米谷病院では、18年度と前年度を比べると、約14%減少

して43・9%。これは、平成18年10月から84床休止していることによるものです。この病床数削減による入院患者への影響は、同時期におけるほかの4病院の利用状況を見ても増加していません。よねやま病院も18年度は、53床あるベッドのうち、約20床は利用されていないという状況でした。これは17年度に医師が一人退職したことによるもので、18年度に入ってからその影響が大きく現れてきています。

市立病院の再編に向けて

ここ数年の国保データを見ると、入院して治療を受ける患者の数は増えています。ただし、国保への加入者も増えているので、市全体での入院患者数は横ばいと考えられます。

さらに、佐沼病院の産科・小児科の診療制限も病床利用状況に影響を与えています。今後は、病院経営の観点からも、病床利用率の向上を含めた対策を早急に考えていかなければなりません。

す。しかし、すべての市立病院で病床利用率は低下してきています。今後、その分析や市民の受診動向、病床利用状況などをもとに、各地域が持っている特性や将来の人口推移などを考慮した、市全体の病床数の在り方と、それぞれの病院がおの役割を果たせるような、市立5病院の再編を具体化していきます。

【問い合わせ】
医療局経営改革推進室
0220(21)5030